

素敵に輝け！

しにくい挨拶ができるように

毎朝校門前で立哨してくださっているAさんから、「最近、挨拶の声、小さくならんだけ」との声を聞いたのは1学期のことでした。それに対し、「今、委員会で話し合っ、子供たちの自主的な働きかけに任せることに・・・」と説明をしていましたが、改善はなされませんでした。地域の方は長年に亘って子供たちの様子を見てくださっているだけに、いろいろな違いを敏感に感じ取られるようです。これまで、「あいさつ運動」が実施されるたびに「挨拶が上手になってきたな」と思いましたが、その運動が終わるとまた意識が下がってしまうようです。身に付くまでになることの難しさを感じます。

あまり元気のない挨拶が続いたために、Aさんは集団登校してくる子供たちに「大きな声で挨拶するよ。せーの」と声をかけてくださるようになりました。それにより一斉に大きな声で挨拶はしますが、いつしかその「せーの」を当てにし、そのかけ声をもらって挨拶をするのが常態化してきているようにも感じます。Aさんは「自分から、大きな声で挨拶してくれることを期待していらっしゃる」のに、その思いまでは感じ取れていないようです。

校舎内での子供たちの挨拶はとても上手で、廊下で出会う子供たちは誰もが「こんにちは」と挨拶をしてくれます。この子供たちの姿は本校の自慢です。しかし、登校時は立っ、てくださっている方たちに自分から進んで挨拶できる子はあまりいません。挨拶が上手なはずの子供たちだけに、「何となくしにくい状況では挨拶ができない」ということを残念に感じます。

校舎内ですれ違う際にする挨拶は、限られた空間でそれほど大きな声を出さなくてもできるので「しやすい挨拶」だと思います。一方、外での挨拶は、大きな声を出さないといけないし、集団で固まっている中で自分から声を出すということで「しにくい挨拶」なのでしょう。子供たちの様子を見ていて「しやすい挨拶」が上手になっても、それが「しにくい挨拶」が上手になることにはつながらないと感じます。「しにくい挨拶」ができるようになるためには、まずは「挨拶しよう」とする強い意思が必要なのです。

来週より「友達いっぱい委員会」が「あいさつ週間 第1弾」を始めます。その後、第2弾、第3弾とレベルアップしていく予定だそうです。子供たちの挨拶にどのような変化が生まれるのか期待し、楽しみにしています。

この機会に、ご家庭でも挨拶のことを話題にしてください。そして外出先で挨拶すべき機会があった際には、手本を示したり、挨拶するように促したりして、習慣付けの好機としてくださいとよいなと思います。

今週に入って、バス通学登校班のBさんが、自分から大きな声で道を挟んだ向かい側にいる私に「おはようございます」と挨拶をしてくれるようになりました。子供を思うAさんの気持ちが、一輪の花を咲かせました。